

次期ごみ処理施設整備事業に係る

## 環境影響評価準備書の概要

準備書住民説明会

令和2年5月

羽島市・岐阜羽島衛生施設組合

1

## 本日の説明内容

1. 事業計画の概要
2. 環境影響評価とは
3. 環境影響評価の結果
4. 準備書の縦覧について

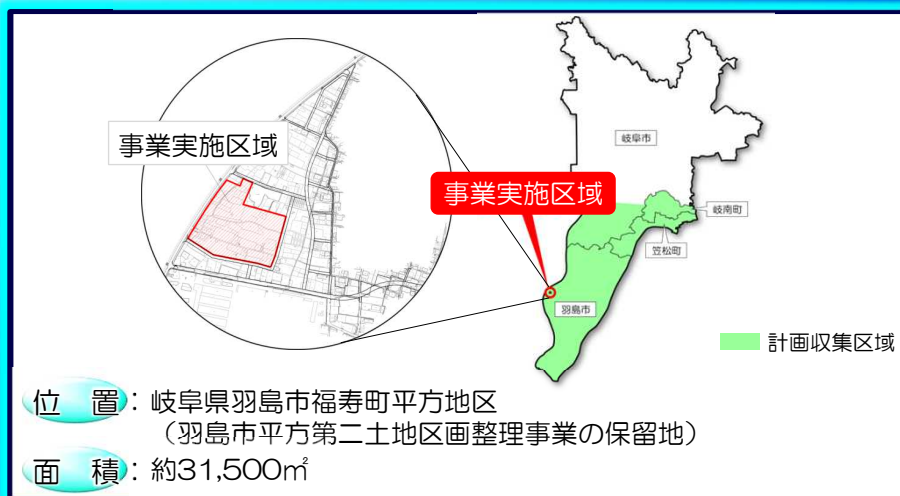
2

## 1. 事業計画の概要

3

### 事業の目的及び事業実施区域の位置・面積

**目的**：本事業は岐阜市南部、羽島市、岐南町及び笠松町の安定的、継続的なごみ処理体制を再構築するために、次期ごみ処理施設の整備を行うものです。



**位置**：岐阜県羽島市福寿町平方地区  
(羽島市平方第二土地区画整理事業の保留地)

**面積**：約31,500㎡

4

## ごみ処理施設の概要

項目	計画諸元
処理方式	処理方式は、次の方式の中から適切なものを今後選定していきます。 ①焼却施設（ストーカ式） ②焼却施設（流動床式） ③ガス化溶融施設（シャフト炉式） ④ガス化溶融施設（流動床式）
処理能力	130t/日（65t/日×2炉）
処理対象ごみ	可燃ごみ（破碎残さ可燃物を含む）、し尿処理汚泥、災害廃棄物
煙突高さ	59m
主な環境保全措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出ガス、騒音及び振動に関しては周辺環境に配慮し、環境への負荷を極力低減するため、法に定める基準より厳しい自主基準値を設定します。</li> <li>プラント排水は場外には放流しない方式とします。生活排水は下水道放流とします。</li> <li>工事機械は、低騒音型、低振動型、排ガス対策型等の機械を使用します。</li> <li>工事用車両の走行ルートは、できるだけ民家周辺を避け幅の広い道路を利用します。</li> <li>工事中の濁水流出防止対策として、仮設沈砂設備等を設置します。</li> </ul>

5

## 公害防止計画

### 排ガス

項目	次期施設基準値	法規制値	法規制値の根拠
ばいじん	0.01g/m <sup>3</sup> N	0.08g/m <sup>3</sup> N	大気汚染防止法
硫黄酸化物	K値≒0.12 (約20ppm)	K値=11.5 (約2,000ppm)	大気汚染防止法
塩化水素	40ppm	700mg/m <sup>3</sup> N (430ppm)	大気汚染防止法
窒素酸化物	30ppm	250ppm	大気汚染防止法
ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	1ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	ダイオキシン類 対策特別措置法
水銀	30μg/m <sup>3</sup> N	30μg/m <sup>3</sup> N	大気汚染防止法
一酸化炭素濃度	100ppm（1時間平均） 30ppm（4時間平均）	100ppm（1時間平均） 30ppm（4時間平均）	廃棄物の処理及び 清掃に関する法律

### 排水

プラント排水は基本的にクローズドシステム、生活排水は下水道放流、雨水排水は河川放流とします。生活排水は下水道排除基準を満たすものとします。

6

## 公害防止計画

### 騒音

	昼間 午前8時～午後7時	朝夕 午前6時～午前8時 午後7時～午後11時	夜間 午後11時～午前6時
法基準値	65 デシベル	60 デシベル	50 デシベル
自主基準値	60 デシベル	50 デシベル	45 デシベル

### 振動

	昼間 午前8時～午後7時	夜間 午後7時～ 翌日の午前8時
法基準値	65 デシベル	60 デシベル
自主基準値	60 デシベル	55 デシベル

#### 【騒音の目安】

60デシベル：普通の会話、  
静かな乗用車  
50デシベル：静かな事務所  
40デシベル：図書館、  
静かな住宅地の昼間

#### 【振動の目安】

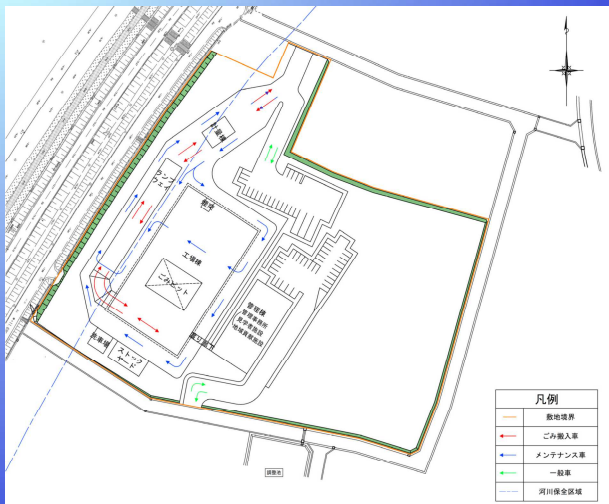
60デシベル：静止している人  
だけ感じる  
50デシベル：人体に感じない程度

### 悪臭

羽島市告示の規制基準を基準値とします。

7

## 施設配置図



### 主要な計画施設

- 工場棟  
(ごみ処理施設)
- 管理棟
- 計量棟
- 駐車場
- スtockヤード
- 洗車場

8

## イメージパース



9

## 事業スケジュール

項目	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度	R1 (2019) 年度	R2 (2020) 年度	R3 (2021) 年度	R4 (2022) 年度	R5 (2023) 年度	R6 (2024) 年度	R7 (2025) 年度	R8 (2026) 年度	R9 (2027) 年度	R10 (2028) 年度
①施設基本計画	■		■ 見直し									
②環境影響評価												
方法書手続き		■										
現地調査			■									
準備書手続き				■								
評価書手続き					■							
③都市計画決定				■	■							
④用地取得						■						
⑤PFI等導入可能性調査			■									
⑥要求水準書(案)の作成				■	■							
⑦事業者選定						■	■					
⑧建設工事								■	■	■	■	
⑨施設の供用開始												■

10

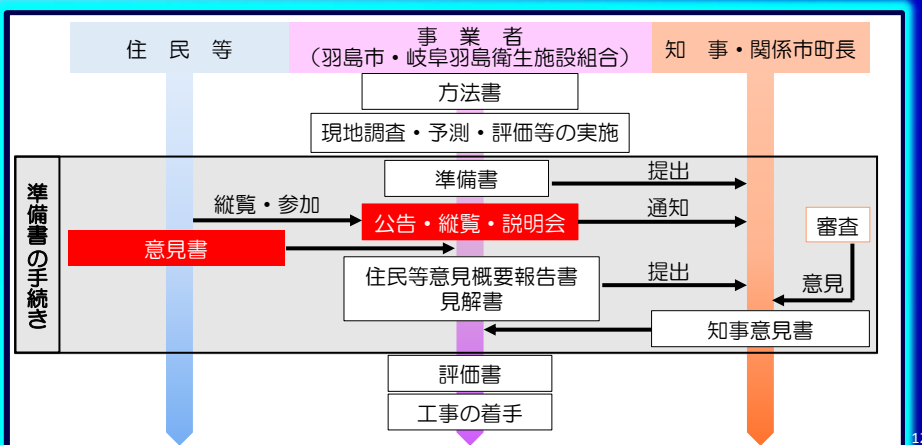
## 2. 環境影響評価とは

11

### 環境影響評価とは

環境影響評価とは、あらかじめその事業に係る環境への影響について自ら適正に調査、予測及び評価を行い、県や専門家などの意見を聞きながら、よりよい事業計画を作り上げていこうという制度です。

### 環境影響評価の手続き



12

## 項目の選定

事業計画の内容と地域の特性から、環境影響評価項目を17項目選定しました。

項目		大気	水質・底質・地下水	土壌	騒音	振動	地盤	悪臭	廃棄物等	温室効果ガス	電波障害	日照障害	その他(低周波音)	動物	植物	生態系	触れ合い活動の場	景観
工事中	工事の実施	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●		
供用時	工作物等の存在									●	●			●	●	●	●	●
	人の活動	●		●	●	●	●	●	●				●					

13

## 関係地域

- 事業実施区域周辺は長良川沿いの平坦な地形です。
- 事業実施区域周辺には、住宅等の市街地、農地等が分布しています。
- 関係地域は、煙突排ガスの影響範囲を考慮して、事業実施区域から半径3kmの範囲としました。



14

### 3. 環境影響評価の結果

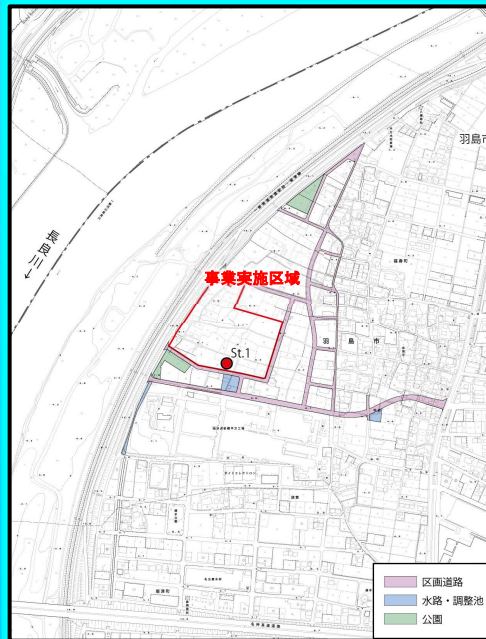
15

大気質

16

## 調査方法

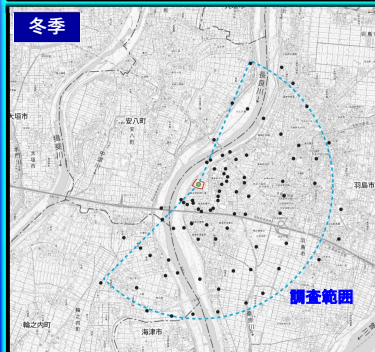
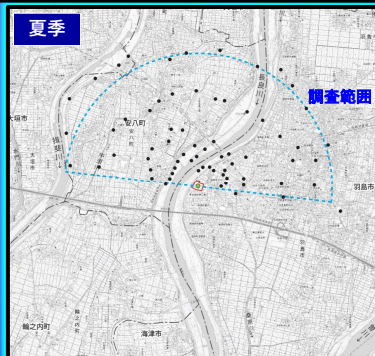
	地上気象	上空気象
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 風向</li> <li>● 風速</li> <li>● 気温、湿度</li> <li>● 日射量</li> <li>● 放射収支量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 風向</li> <li>● 風速</li> <li>● 気温</li> </ul>
調査時期 頻度	1年間連続	4季×7日間
地点数	● 事業実施区域：1地点	



17

## 調査方法

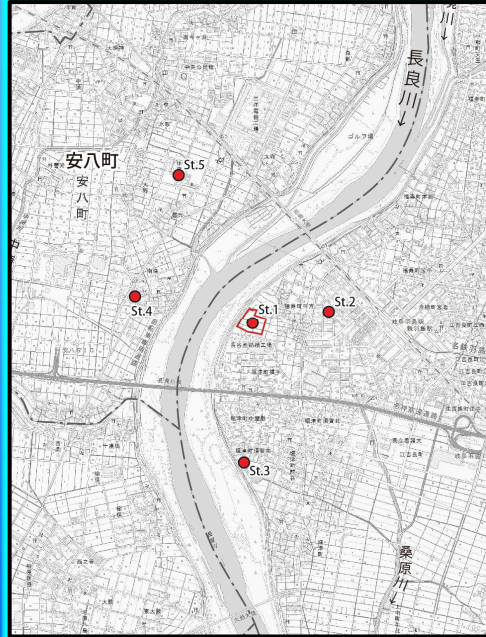
	大気拡散実験
調査項目	トレーサーガスの拡散分布
調査時期 頻度	夏季 1回 (5ケース) 冬季 1回 (5ケース)
地点数	夏季 68地点 (50地点/ケース) 冬季 80地点 (50地点/ケース)



18

## 調査方法

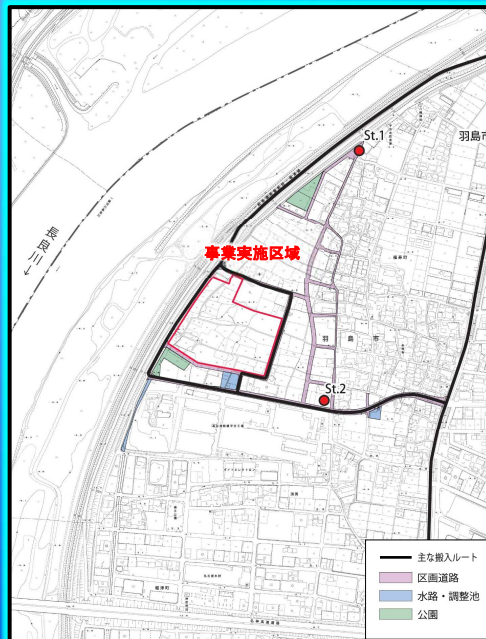
一般環境大気質				
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二酸化硫黄</li> <li>● 二酸化窒素</li> <li>● 浮遊粒子状物質</li> <li>● 微小粒子状物質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 塩化水素</li> <li>● 水銀</li> <li>● ダイオキシン類</li> </ul>	● 粉じん等 (降下ばいじん)	
	調査時期・頻度	1年間連続/ 4季×1週間連続	4季×7日間	4季×1ヶ月間
地点数	● 事業実施区域 1地点/ ● 周辺：4地点	● 周辺： 4地点	● 事業実施区域： 1地点	
	● 5地点			



19

## 調査方法

大気質（沿道）	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二酸化窒素</li> <li>● 浮遊粒子状物質</li> <li>● ベンゼン</li> <li>● トリクロロエチレン</li> <li>● テトラクロロエチレン</li> <li>● ジクロロメタン</li> </ul>
調査時期・頻度	4季×1週間連続（7日間）
地点数	● 周辺：2地点

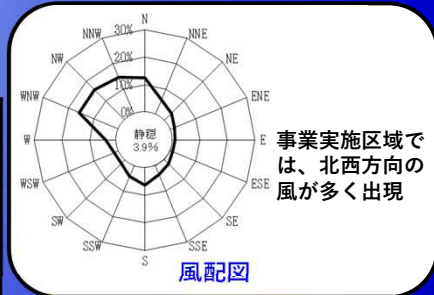


20

## 調査結果

### ▼地上気象

調査 時期	風速		風向		静穏率 %
	日平均		最多風向		
	最高 m/s	最低 m/s	風向 16方位	出現率 %	
1月	4.2	0.8	NW	19.2	4.8
2月	4.6	1.1	NNW	21.6	3.4
3月	4.8	0.9	NNW	20.0	2.3
4月	6.1	1.2	WNW	19.4	1.3
5月	4.7	1.1	S	15.7	3.2
6月	5.7	0.9	WNW	16.4	4.2
7月	3.4	0.8	S	14.4	6.0
8月	8.2	1.1	S	15.5	6.2
9月	4.2	1.1	WNW	17.1	3.9
10月	4.7	0.9	NW	21.5	4.5
11月	3.9	0.8	NW	22.2	3.3
12月	4.9	0.8	NW	22.2	3.1
年間	8.2	0.8	NW	15.9	3.9



風配図

### ▼上空気象

高度(m)	50	100	150	200
平均風速(m/s)	3.4	4.1	4.5	4.7
最多風向	NNW	WNW	WNW	WNW

高度(m)	300	500	1000	1500
平均風速(m/s)	4.7	5.1	7.0	9.2
最多風向	WNW	NNW	NW	NW

21

## 調査結果

### ▼一般環境大気質

項目	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	環境 基準値等	適合 状況
二酸化硫黄 (ppm)	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.04以下	○
窒素酸化物 (ppm)	0.011	0.009	0.011	0.012	0.010	—	—
一酸化窒素 (ppm)	0.002	0.001	0.001	0.002	0.002	—	—
二酸化窒素 (ppm)	0.009	0.008	0.010	0.010	0.009	0.04以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.017	0.019	0.020	0.019	0.019	0.10以下	○
微小粒子状物質 (μg/m <sup>3</sup> )	13.7	13.4	13.7	13.8	13.4	15.0以下	○
塩化水素 (ppm)	/	0.0003	0.0003	0.0003	0.0003	0.02以下	○
水銀 (μg/m <sup>3</sup> )	/	0.0014	0.0017	0.0016	0.0015	0.04以下	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	/	0.016	0.014	0.013	0.015	0.6以下	○
降下ばいじん (t/km <sup>2</sup> /30日)	2.24	/	/	/	/	—	—

注) 値は測定期間の平均値を示す。

各項目はすべての調査地点で環境基準値等を満足しました。



大気質測定の様子 22

## 調査結果

### ▼沿道環境大気質

項目	St.1	St.2	環境基準値	適合状況	
窒素酸化物 (ppm)	0.009	0.011	—	—	
一酸化窒素 (ppm)	0.002	0.002	—	—	
二酸化窒素 (ppm)	0.008	0.009	0.04以下	○	
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.019	0.019	0.10以下	○	
有害物質等	ベンゼン (mg/m <sup>3</sup> )	0.00081	0.00080	0.003以下	○
	トリクロロエチレン (mg/m <sup>3</sup> )	0.00032	0.00035	0.13以下	○
	テトラクロロエチレン (mg/m <sup>3</sup> )	0.00010	0.00010	0.2以下	○
	ジクロロメタン (mg/m <sup>3</sup> )	0.00153	0.00153	0.15以下	○

注) 値は測定期間の平均値を示す。

各項目はすべての調査地点で環境基準値を満足しました。



大気質測定の様子

23

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 工事区域内は散水、清掃を行います。
- 工事区域内の工事用車両の走行ルート上で、必要に応じ散水等を行います。
- 定期的に工事機械・運搬車両の点検整備を行います。
- 作業待機時におけるアイドリングストップを徹底します。
- 排出ガスの最新規制適合車や低公害型車両の導入・使用に努めます。



走行ルートの散水



最新規制適合車

24

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### ▼土地の改変による粉じん等の影響予測結果

年間の出現時間数		年間の出現日数	
時間数	出現頻度	日数	出現頻度
465時間	12.7%	123日	34.0%

粉じん等の飛散が考えられる風速5.5m/s以上の出現度は低いと予測しました。

#### ▼工事機械の稼働、工事車両の影響予測結果

項目	工事機械の稼働	工事車両の走行	環境基準値	適合状況
二酸化窒素 (ppm)	0.059	0.0215	0.06以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.044	0.0369	0.10以下	○

大気汚染物質は環境基準値を満足しました。

25

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 排出ガス処理設備の運転管理の徹底を図ります。
- 排出ガスの最新規制適合車や低公害型車両の導入・使用に努めます。

#### ▼施設の稼働による影響予測結果

施設の煙突排ガスに含まれる有害物質が周辺に与える影響について、気象条件別で予測を実施。

**長期平均濃度**・・・日常的な気象条件のもと、施設の煙突排ガスが拡散し、周辺にどのように影響するかを予測。

**短期高濃度**・・・特別な気象条件のもと、施設の煙突排ガスが拡散し、周辺に局所的に影響する場合を予測。

26

## 予測結果

### ▼施設の稼働による影響予測結果

	項目	予測結果	環境基準値等	適合状況
長期平均濃度	二酸化硫黄 (ppm)	0.005	0.04以下	○
	二酸化窒素 (ppm)	0.020	0.06以下	○
	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.035	0.10以下	○
	水銀 (μg/m <sup>3</sup> )	0.0021	0.04以下	○
	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0161	0.6以下	○
短期高濃度	二酸化硫黄 (ppm)	0.0255	0.1以下	○
	二酸化窒素 (ppm)	0.0526	0.2以下	○
	浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0992	0.20以下	○
	塩化水素 (ppm)	0.0170	0.02以下	○

大気汚染物質は、長期平均濃度及び短期高濃度の予測においていずれも環境基準値等を満足しました。

27

## 予測結果

### ▼廃棄物運搬車両の影響予測結果

項目	予測結果	環境基準値	適合状況
二酸化窒素 (ppm)	0.0213	0.06以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m <sup>3</sup> )	0.0368	0.10以下	○

大気汚染物質は環境基準値を満足しました。

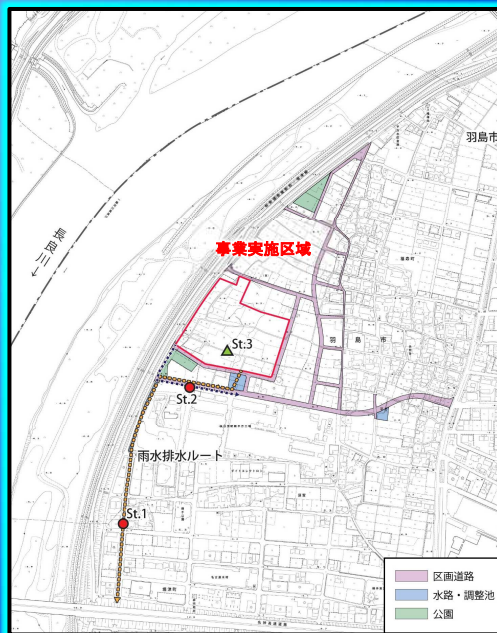
28

## 水質・底質・地下水

29

## 調査方法

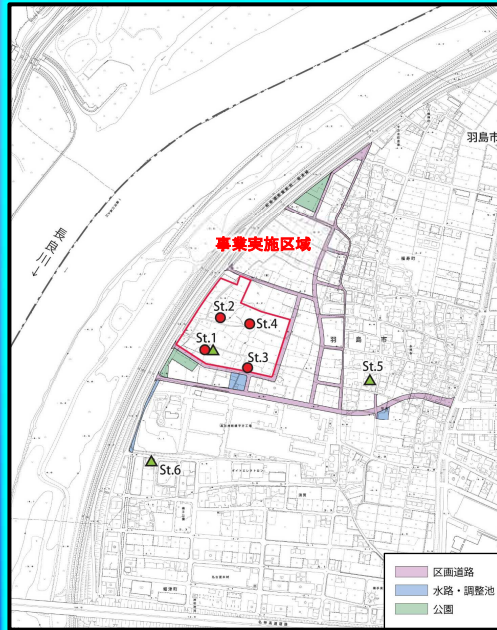
	水質・土質		
	平常時水質	降雨時水質	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境基準項目</li> <li>ダイオキシン類</li> <li>流量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浮遊物質量</li> <li>濁度</li> <li>流量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土質の状況</li> </ul>
調査時期・頻度	4季×1回	年2回	年1回
地点数	● 2地点	▲ 1地点	



30

## 調査方法

調査項目	地下水	
	地下水質	地下水位
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境基準項目</li> <li>● ダイオキシン類</li> <li>● 浮遊粒子状物質</li> <li>● 濁度</li> </ul>		● 地下水位
調査時期 頻度	年2回	1年間連続
地点数	▲ 3地点	● 4地点



31

## 調査結果

### ▼河川水質（平常時 St.1）

項目	冬季	春季	夏季	秋季	環境基準値	適合状況
水素イオン濃度	7.6	7.7	8.6	8.0	6.5～8.5	○
生物化学的酸素要求量 (mg/L)	1.2	2.6	2.1	1.3	5.0	○
浮遊物質 (mg/L)	ND	3	4	2	50	○
全窒素 (mg/L)	1.1	1.1	1.3	0.78	—	—
全リン (mg/L)	0.16	0.21	0.24	0.15	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.59				1.00	○

注) ND: 定量下限値

### ▼河川水質（平常時 St.2）

項目	冬季	春季	夏季	秋季	環境基準値	適合状況
水素イオン濃度	7.6	7.6	7.3	8.6	6.5～8.5	○
生物化学的酸素要求量 (mg/L)	ND	1.6	1.2	4.2	5.0	○
浮遊物質 (mg/L)	3	15	9	22	50	○
全窒素 (mg/L)	0.57	1.1	0.56	7.2	—	—
全リン (mg/L)	0.10	0.18	0.11	0.87	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.17				1.00	○

河川水質は、すべての項目（38項目）で環境基準値を満足していました。

32

## 調査結果

### ▼河川水質（降雨時）

項目	St.1		St.2	
	1回目	2回目	1回目	2回目
浮遊物質濃度 (mg/L)	6~110	19~92	3~87	7~51
濁度 (度)	7.4~72	22~86	3.1~67	5.8~46
水深 (m)	0.06~0.59	0.11~0.90	0.06~0.39	0.04~0.75
流量 (m <sup>3</sup> /sec)	0.000~0.172	0.000~0.652	0.0027~0.0478	0.0009~0.1400

### ▼地下水質

事業実施区域内1地点、周辺2地点における地下水質はすべての項目（31項目）で環境基準値を満足しました。

33

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 工事中に掘削したままの表層を長時間露出しないように工事区域を区切って施工します。
- 法面の崩壊と土砂流出防止のため、法面保護などを適宜実施します。
- 大雨が予想される時は、できる限り土壌が流出しないよう、工事工程の変更及び適切な濁水流出防止対策を講じます。

### ▼仮設沈砂池の必要滞留時間及び必要容量の予測結果

流出量	目標濁水濃度 (浮遊物質濃度)	必要滞留時間	仮設沈砂池 必要容量
300m <sup>3</sup> /h	110mg/L	165分	825m <sup>3</sup>

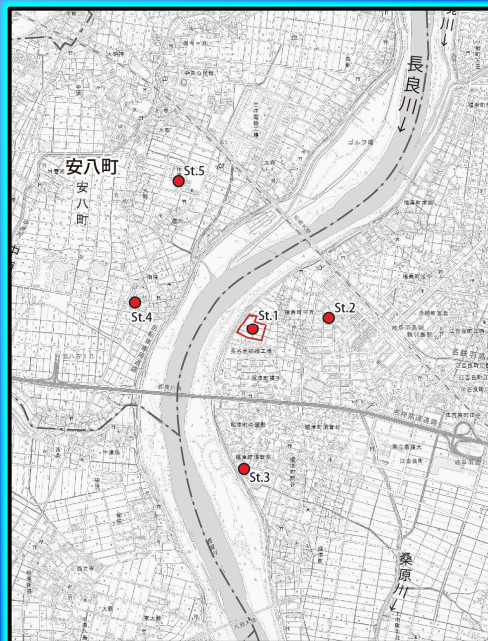
工事中の雨水排水は、事業実施区域内の仮設沈砂池で濁りを沈降させた後に上澄みを放流することで降雨時における濁水の発生を防止します。

34

# 土壤

## 調査方法

	土壤
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>● 環境基準項目</li><li>● 第2種特定有害物質</li><li>● ダイオキシン類</li></ul>
調査時期	年1回
頻度	
地点数	● 5地点



## 調査結果

### ▼土壌（環境基準項目、第2種特定有害物質、ダイオキシン類）

事業実施区域内1地点、周辺4地点における土壌の汚染に係る環境基準項目（29項目）、第2種特定有害物質（9項目）及びダイオキシン類はすべて環境基準値等を満足しました。

調査地点	ダイオキシン類 (pg-TEQ/g)	環境 基準値	適合状況
St.1	5.2	1000 以下	○
St.2	3.6		○
St.3	2.2		○
St.4	0.10		○
St.5	5.3		○



37

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 新たに場外から搬入する土砂等は土壌汚染のない適切な土砂を使用します。

事業実施区域の土壌環境は良好な状況であり、掘削・盛土等の土工に伴って発生する残土により土壌汚染が発生・拡散する可能性はほとんどないものと予測しました。

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 焼却設備の適切な運転管理の徹底を図ります。

煙突排ガスの排出に伴うダイオキシン類の大気中の濃度への寄与は極めて小さく、当該大気からの沈降による土壌への影響は極めて小さいと予測しました。

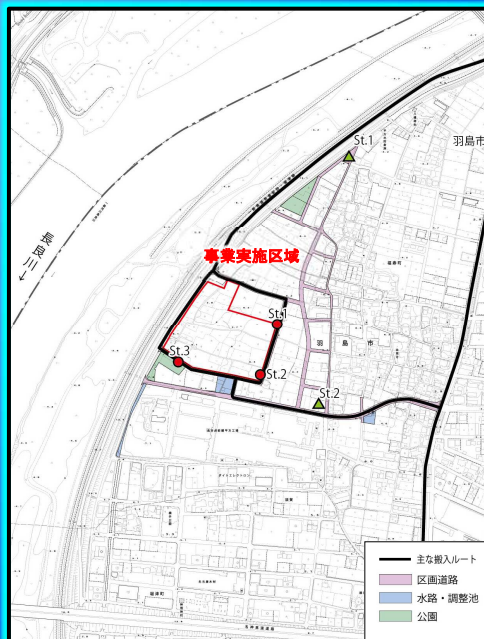
38

## 騒音・振動・低周波音

39

## 調査方法

	環境騒音・振動・ 低周波音	道路交通騒音・振動
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境騒音</li> <li>● 環境振動</li> <li>● 低周波音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道路交通騒音</li> <li>● 道路交通振動</li> <li>● 地盤卓越振動数</li> <li>● 交通量</li> <li>● 走行速度</li> <li>● 沿道の状況</li> </ul>
調査時期 頻度	平日 1日	平日 1日 休日 1日
地点数	● 敷地境界 : 3地点	▲ 走行ルート沿道 : 2地点



40

## 調査結果

### ▼環境騒音 (L<sub>Aeq</sub>)

単位：dB

区分	St.1	St.2	St.3	環境基準値	適合状況
昼間	48	49	49	60	○
夜間	45	45	43	50	○



### ▼環境振動 (L<sub>10</sub>)

単位：dB

区分	St.1	St.2	St.3	感覚閾値	適合状況
昼間	35	41	35	50	○
夜間	30未満	32	31		○

注) 感覚閾値：人が振動を感じ始めるレベル

環境騒音・環境振動の測定値は全地点で環境基準値等を満足しました。

41

## 調査結果

### ▼道路交通騒音 (L<sub>Aeq</sub>)

単位：dB

区分	平日		休日		環境基準値	適合状況
	St.1	St.2	St.1	St.2		
昼間	52.9	55.5	49.3	50.0	65.0	○
夜間	44.3	47.5	42.7	46.3	60.0	○

### ▼道路交通振動 (L<sub>10</sub>)

単位：dB

区分	平日		休日		要請限度	適合状況
	St.1	St.2	St.1	St.2		
昼間	36.3	50.1	33.0	35.9	70.0	○
夜間	32.4	36.8	30.7	36.1	65.0	○

道路交通騒音・振動の測定値は平日休日ともに全地点で環境基準値等を満足しました。

42

## 調査結果

### ▼低周波音（G特性音圧レベル）

単位：dB

調査地点	G特性音圧レベル	感覚閾値	適合状況
St.1（北東側）	70	90	○
St.2（南東側）	71		○
St.3（南西側）	73		○

注）感覚閾値：低周波音を感じる事ができる最小の音圧レベル

低周波音の測定値はすべての調査地点で感覚閾値より小さい値となっていました。

43

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 工事機械は、低騒音・低振動型を使用します。
- 工事の機械及び工事用車両の整備、点検を徹底します。
- 発生騒音・振動が極力少なくなる施工方法や手順を十分に検討します。
- 工事機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努めます。
- 工事区域周辺の可能な範囲に仮囲いを設置します。
- 不要なアイドリングストップや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底します。
- 工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行います。

44

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### ▼工事機械の稼働による影響予測結果

【騒音】

単位：dB

区分	予測結果	規制基準値	適合状況
昼間	74	85以下	○

【振動】

単位：dB

区分	予測結果	規制基準値	適合状況
昼間	63	75以下	○

#### ▼工事車両の走行による影響予測結果

【騒音】

単位：dB

区分	予測結果	環境基準値	適合状況
昼間	58	65以下	○

【振動】

単位：dB

区分	予測結果	要請限度	適合状況
昼間	62	70以下	○

工事の実施による騒音・振動の予測結果は環境基準値等を満足しました。

45

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 設備機器については、低騒音・低振動型機器の採用に努めます。
- 処理設備は建屋内への配置を基本とします。
- 工場棟出入口にはシャッターを設け、外部への騒音の漏洩を防ぐため可能な限り閉鎖します。
- 騒音の大きな機器については、内側に吸音処理を施した独立部屋に収納します。
- 設備機器の整備、点検を徹底します。
- 朝、夕の交通量増加時には廃棄物運搬車両の台数を抑えるように努めます。
- 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底します。
- 振動の著しい設備機器は、基礎構造を強固にします。
- 主要な振動発生機器については、必要に応じて基礎部への防振ゴム設置等の防振対策を施します。

46

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### ▼施設の稼働による騒音の予測結果

単位：dB

区分	施設稼働寄与値	自主基準値	適合状況
朝	44.6	50	○
昼間		60	○
夕		50	○
夜間		45	○

施設稼働寄与値は全時間帯において自主基準値を満足しました。

注) 施設稼働寄与値：施設の稼働に伴い発生する騒音

施設稼働寄与値 + 現況値

単位：dB

区分	現況値	合成値	規制基準値
朝	57	57	60
昼間	56	56	65
夕	55	55	60
夜間	52	53	50

夜間の合成値が、規制基準値を超過していますが、これは現況値がすでに規制基準値を超過しているためです。

47

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### ▼施設の稼働による振動の予測結果

単位：dB

区分	現況値	施設稼働寄与値	合成値	自主基準値	適合状況
昼間	45	35.0	45	60	○
夜間	35	35.0	38	55	○

施設の稼働による振動の予測結果は自主基準値を満足しました。

#### ▼廃棄物運搬車両の走行による影響予測結果

【騒音】

単位：dB

【振動】

単位：dB

区分	予測結果	環境基準値	適合状況	区分	予測結果	要請限度	適合状況
昼間	61	65以下	○	昼間	61	70以下	○

廃棄物運搬車両の走行による騒音・振動の予測結果は環境基準値等を満足しました。

48

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### ▼施設の稼働による低周波音の予測結果

##### 環境保全措置

- 設備機器については、低騒音・低振動型の機器の採用に努めます。
- 配置する機器による低周波音の影響が想定される場合には、室内壁の防音処理などの防音対策を行います。
- 設備機器の整備、点検を徹底します。

類似施設と同程度またはそれ以下と考えられ、感覚閾値90dBを下回ると予測しました。

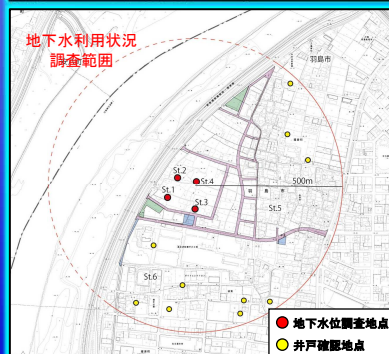
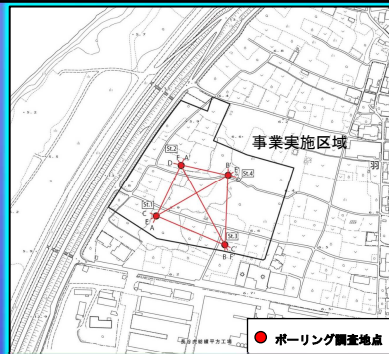
地盤

## 調査方法

	地盤	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地盤、地形</li> <li>●地質の状況</li> <li>●地下水利用状況</li> </ul>	●地下水位
調査時期 頻度	1回	1年間連続
地点数	事業実施区域 及び周辺 (500m)	4地点



ボーリング調査の様子



51

## 調査結果

### ▼地形・地質・地盤・地下水位の状況

- ・事業実施区域における地盤は、氾濫原堆積物、南陽層・下部粘土層、濃尾層、第一礫層により構成されています。
- ・地下水位は地表から2~4.5mほど下に存在します。地面から地下水までの距離が短いため、地下水位は降雨の影響を受けて上昇します。

### ▼地下水利用の状況

- ・地下水質調査地点を含め13箇所の井戸を確認しました。主に農業用水の取得や雑用水に使用していました。
- ・揚水量が約1,000m<sup>3</sup>/日の地下水利用がある近接事業所がありました。

52

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 地下水位より深い深度まで掘削する際は、矢板等による遮水工を設置します。
- 事業実施区域内または周辺地域において工事期間中に地下水位のモニタリングを実施し、その結果を施工方法等に反映します。
- 盛土を行う場合は周辺に圧密沈下が生じない高さで実施します。

環境保全措置を講じることにより、土地の改変による地盤沈下の影響はほとんどないと予測しました。

### <人の活動による影響の予測・評価>

施設稼働に必要な揚水量は約60m<sup>3</sup>/日と少ないことから、地下水の揚水による地下水位の低下の影響は少ないと予測しました。

53

悪臭

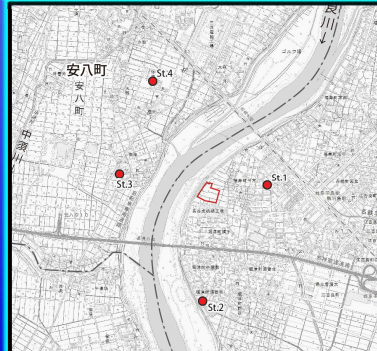
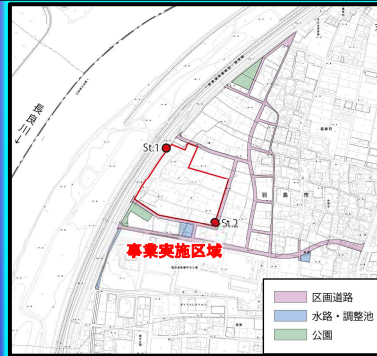
54

## 調査方法

	悪臭
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特定悪臭物質</li> <li>● 臭気指数</li> </ul>
調査時期 頻度	平日2回
地点数	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 敷地境界：2地点</li> <li>● 周辺：4地点</li> </ul>



悪臭物質測定の様子



55

## 調査結果

### ▼悪臭（特定悪臭物質22項目）

事業実施区域の敷地境界2地点、周辺4地点における特定悪臭物質（22項目）はすべての項目で規制基準等を満足しました。

### ▼悪臭（臭気指数）

調査地点		臭気指数	
		6月	8月
事業実施区域 敷地境界	St.1	10未満	15
	St.2	16	17
周辺	St.1	10未満	10未満
	St.2	13	13
	St.3	10未満	10未満
	St.4	10未満	10未満

56

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 焼却設備の運転・維持管理徹底を図ります。
- 施設の密閉化の実施、エアーカーテン及びプラットフォームの出入りに自動開閉式扉を設置します。
- ごみピット内等の空気を燃焼空気として利用します。
- 臭気漏洩防止設備の運転・維持管理徹底を図ります。
- 全炉停止期間中においてもごみピット内等の空気を吸引して、脱臭装置で処理します。

57

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### ▼煙突排ガスによる悪臭の予測結果

項目	予測結果	規制基準値	適合状況
特定悪臭物質 アンモニア (ppm)	0.017	0.2以下	○
臭気指数	10未満	10未満	○

煙突排ガスによる特定悪臭物質の最大着地濃度は、敷地境界における規制基準値未満と予測しました。

#### ▼施設からの悪臭の漏洩の予測結果

施設からの悪臭の漏洩による敷地境界における特定悪臭物質濃度は、旧施設の調査結果及び、旧施設と同様の悪臭防止対策を講じることから、規制基準値未満となると予測しました。

58

## 廃棄物等

59

## 予測結果

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 工事に使用する資機材等については、省梱包化を図り、廃棄物の発生抑制に努めます。
- 建設副産物は可能な限り再利用または再資源化します。

工事の実施に伴う建設副産物は、積極的に排出抑制、再資源化を図ることにより環境への影響は低減が図られていると予測しました。

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- スラグ、メタル等の再資源化を図ります。

廃棄物焼却施設の稼働に伴い発生する焼却灰等は、再資源化を検討すること等により環境への影響は低減が図られていると予測しました。

60

## 温室効果ガス

61

## 予測結果

### <人の活動による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 廃棄物の処理に伴う廃熱を回収し、発電に利用することで、外部から供給される化石燃料由来の電気使用量を削減します。
- 発電した電力は場内利用し、余剰電力を売電することで、電力会社等の化石燃料による発電量を削減します。
- 廊下、トイレ等の照明について、LED照明を採用することなど、省電力に努めます。
- ごみ質や燃焼温度の管理等を適切に行い、助燃材の消費を低減します。

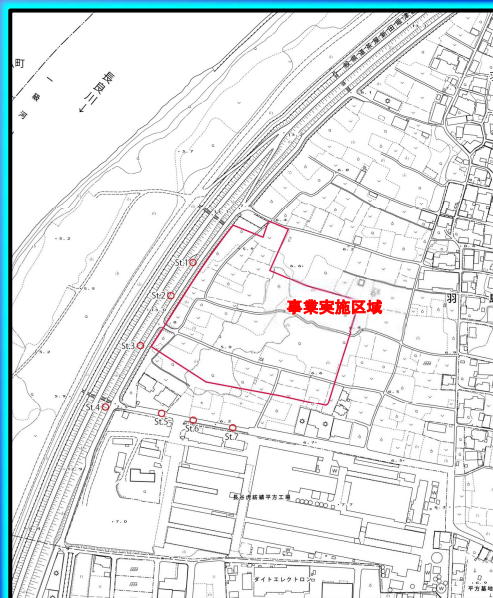
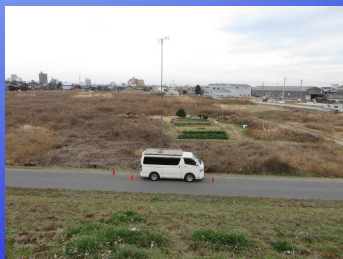
廃棄物焼却施設の稼働等における温室効果ガスの二酸化炭素換算による排出量は26,811～29,221t-CO<sub>2</sub>/年であり、環境保全措置を実施することで環境への影響は低減が図られていると予測しました。

62

# 電波障害

## 調査方法

電波障害	
調査項目	● テレビ電波の状況
調査時期 頻度	1回
地点数	○ 事業実施区域周辺：7地点



## 調査結果

### ▼テレビ電波の受信状況

送信局	放送局名	チャンネル	画質評価
名古屋局	東海テレビ	21	良好
	NHK教育	13	良好
	NHK総合	20	良好
	中京テレビ	19	良好
	CBCテレビ	18	良好
	名古屋テレビ	22	良好
	テレビ愛知	23	良好
岐阜局	NHK総合	29	良好
	岐阜テレビ	30	良好



いずれの放送局からも受信状況は良好でした。

65

## 予測結果

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

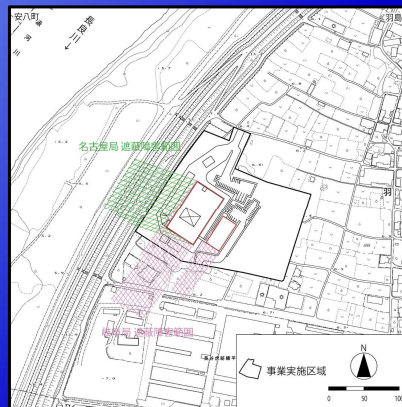
- 遮蔽障害に対する共同受信施設の設置等の対策を適切に実施します。

### ▼遮蔽障害範囲の予測結果

**名古屋局**：施設の西側に約50m

**岐阜局**：施設の南西側に約90m

の遮蔽障害が出現しますが、環境保全措置を実施することで影響は小さいと予測しました。

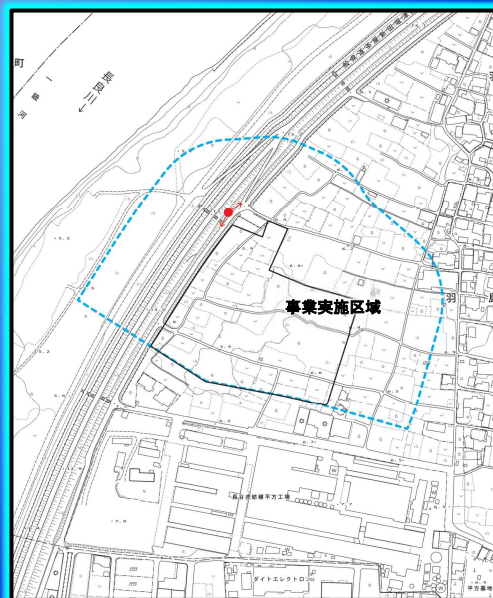


66

# 日照障害

## 調査方法

	日照障害
調査項目	● 日影の状況
調査時期 頻度	1回
地点数	事業実施区域及び周辺100m



## 調査結果

### ▼事業実施区域の状況



事業実施区域は主に草地であり、周辺に日影を生じさせる建物・樹林等は見られませんでした。

## 予測結果

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

- ・5時間以上の日影が生じる範囲は敷地境界の内側に収まり、3時間以上の日影が生じる範囲は敷地境界西側に最大10mの範囲と予測しました。

### ▼等時間日影図



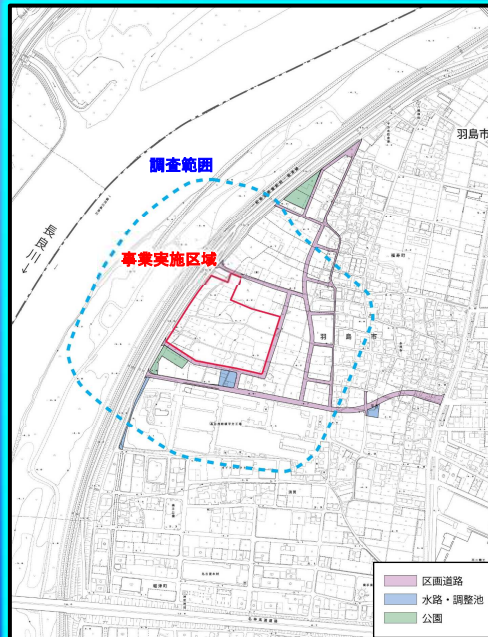
69

## 動物・植物・生態系

70

## 調査方法

	動物・植物・生態系
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貴重な種の繁殖地</li> <li>● 営巣地等生息環境</li> <li>● 貴重な種、植物群落</li> <li>● その他植生の状況</li> <li>● 貴重な種の生態、生育環境の変化</li> </ul>
調査時期 頻度	早春、春、初夏、夏、秋、冬、繁殖期
地点数	事業実施区域及びその周辺200mの範囲



71

## 調査結果（動物・植物）

### ▼確認された種

項目	確認した種数	貴重な種
哺乳類	4目7科10種	1種
鳥類	11目28科47種	3種
両生類	1目2科3種	1種
爬虫類	2目4科5種	なし
陸産貝類	1目8科19種	1種
魚類	5目6科8種	2種
底生動物	14目28科48種	1種
昆虫類	12目128科511種	3種
植物	85科352種	3種

事業実施区域内で生息を確認

哺乳類捕獲用トラップ



水生生物の調査



ヒウモリの夜間調査



アカネズミ



ミサゴ



モツゴ



アオスジアゲハ



72

## 予測結果（動物・植物）

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 貴重な種の繁殖最盛期を避けて草刈りを実施します。

哺乳類の貴重な種は土地の改変により、事業実施区域の生息環境が消失しますが、調査範囲周辺の草地は改変されないため、地域として本種の生息環境は維持されると予測しました。

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 区域面積の20%以上の緑化に努めます。

区域の緑化に努めることで、昆虫類等の動物の生息環境の一部は回復すると予測しました。

73

## 調査結果（生態系）

### ▼注目種について

項目	注目種	選定理由
上位性	ホンドキツネ	現地調査では、市街地と開放水域を除く様々な環境で本種の生息が確認されました。本種は栄養段階の上位に位置し、行動圏も広いことから上位性の貴重な種としました。
	チョウゲンボウ	現地調査では、調査範囲上空での探餌が頻繁に確認されました。調査範囲内での営巣は確認されませんが、近くに位置する長良川橋梁にて営巣していると思われるペアが確認されました。本種は栄養段階の上位に位置し、広範囲を利用していることから上位性の貴重な種としました。
典型性	ニホンカナヘビ	現地調査では開放水域を除く全ての環境で生息が確認されました。昆虫類やクモ類を捕食するとともに哺乳類、鳥類、ヘビ類等の様々な動物の餌資源になっていると考えられます。
特殊性	なし	該当する環境がないため選定しませんでした。

74

## 予測結果（生態系）

### <工事の実施による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 段階的な工事（特に草刈り）を実施します。

環境保全措置の実施により、移動性が高い動物が工事区域から移動し、動物の消失を防ぐことができると予測しました。

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 区域面積の20%以上の緑化に努めます。

事業実施区域の周辺には注目種の生息環境が多く存在します。環境保全措置の実施により、注目種や注目種の餌となる動物の一部が回復すると予測しました。

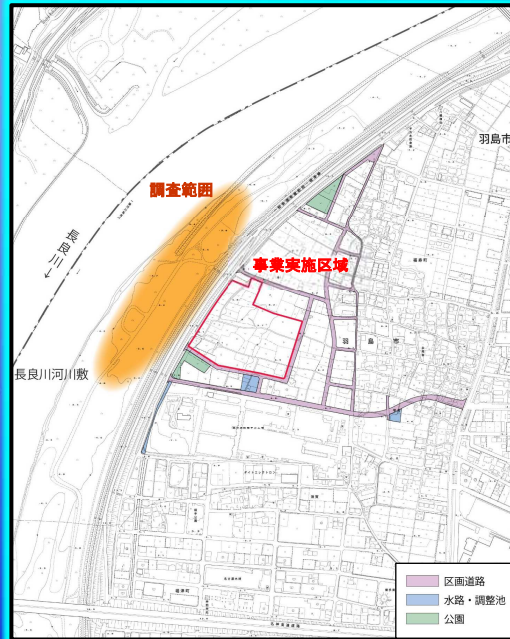
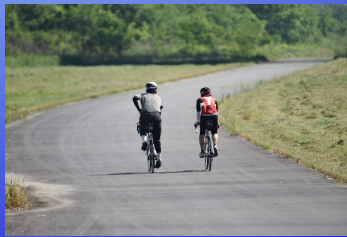
75

## 触れ合い活動の場

76

## 調査方法

	触れ合い活動の場
調査項目	●人と自然との触れ合い活動の場の提供
調査時期 頻度	4季×1回
地点 名称	事業実施区域周辺1地点



77

## 調査結果

### ▼事業実施区域周辺の利用状況

事業実施区域西側の長良川河川敷において、ランニング、サイクリング、ラジコン等のレクリエーションの場としての利用を確認しました。



サイクリング



ランニング

## 予測結果

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

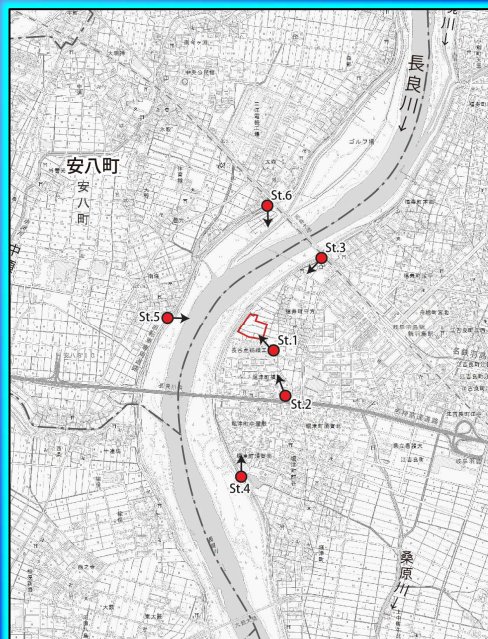
本事業により、長良川河川敷での土地の改変や新たな施設の建設はなく、施設の稼働による騒音、悪臭等の影響は小さいことから、触れ合い活動の場への影響は小さいと予測しました。

78

# 景観

## 調査方法

	景観
調査項目	<ul style="list-style-type: none"><li>● 主要な景観要素の状況</li><li>● 眺望の状況</li></ul>
調査時期	4季×1回
地点数	● 事業実施区域周辺：6地点



## 調査結果

### ▼景観要素、眺望の状況（夏季調査）



81

## 予測結果

### <工作物の存在による影響の予測・評価>

#### 環境保全措置

- 敷地外周への植栽をします。
- 景観に違和感や圧迫感を与えないよう、デザインや色彩に配慮します。

- ・本事業による事業実施区域以外での改変はなく、景観要素や主要な眺望点の変化はありません。
- ・施設外壁の意匠、色彩に配慮し、景観への違和感を軽減することで良好な景観の形成に努めます。



供用時の予測結果（St.1 南東側）

82

## 総合評価

- 本事業による工事の実施、工作物の存在、及び人の活動による環境への影響は、環境保全措置を確実に実施することにより事業者の実行可能な範囲でできる限り回避・低減が図られています。
- 国、県又は市が実施する環境の保全に関する施策によって示されている基準又は目標と予測の結果との間に整合性が図られていることから周辺環境に及ぼす影響は小さいと評価しました。

83

## 4. 準備書の縦覧について

84

## 準備書の縦覧について

縦覧場所		縦覧期間	縦覧時間
岐阜県庁	●六階 環境生活部環境管理課	令和2年5月13日(水) ~ 令和2年6月11日(木)	8:30 ~17:15
岐阜市役所	●南庁舎二階 環境部環境政策課		8:45 ~17:30
大垣市役所	●二階 生活環境部環境衛生課		8:30 ~17:15
羽島市役所	●本庁舎一階 建設部都市計画課		
海津市役所	●西館一階 市民環境部環境課		
岐南町役場	●二階 住民経済教育部経済環境課		
笠松町役場	●二階 企画環境経済部環境経済課		
輪之内町役場	●一階 住民課		
安八町役場	●一階 住民環境課		
岐阜羽島衛生施設組合	●し尿処理施設二階 施設建設推進課		

85

## 準備書に対する意見の提出について

準備書について、環境保全の見地からのご意見をお持ちの方は、「氏名、住所、対象事業の名称、ご意見(日本語)」を明記の上、次の方法で提出することができます。

1.提出方法 羽島市役所建設部都市計画課まで持参、または郵送で提出してください。

2.提出期間 令和2年5月13日(水) ~ 令和2年6月26日(金) (必着)

86

次期ごみ処理施設整備事業への  
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします